

# 「强行反对」国会会场突然

## 安保法制をめぐる動き

2007年5月	第1次安倍政権下で、集団的自衛権を研究する私的諮問機関が初会合。翌年に報告書をまとめるが、法制化されず
9月	安倍晋三首相が体調不良で退陣
12年12月	安倍首相が再登板
13年2月	第2次安倍政権下で、諮問機関が再開
8月	内閣法制局長官に集団的自衛権行使容認派の小松一郎氏起用
14年5月	諮問機関が集団的自衛権の行使を容認する報告書を安倍首相に提出。首相は行使容認検討を与党に指示 —— 図
7月	集団的自衛権の行使容認などを閣議決定
15年4月	安倍首相が米議会上下両院合同会議で演説
5月	安保関連法案を閣議決定し、国会に提出
6月	衆院憲法審査会で参考人招致された長谷部恭男・早大教授らが「違憲」と指摘
7月	衆院特別委員会の審議が116時間を超えたとして、与党が採決を強行し、衆院通過 —— 図
8月	国会周辺で12万人(主催者発表)のデモ —— 図
9月	参院の審議が97時間を超え、与党は採決をめざす

時刻

安全保障関連法案をめぐる国会審議は16日、参院特別委員会での審議を打ち切りたい与党と採決を阻止したい野党が激しい攻防を繰り広げた。国会内では与野党の議員がせめぎ合い、国会周辺は法案に反対する多くの市民が取り囲んだ。横浜市で開かれた地方公聴会では法案の違憲性が改めて指摘され、「安保国会」は法案採決を目指した大きなヤマ場を迎えた。

「廃案… 廃案…」――うな集まつた野党議員の大合唱に包まれた。

「国民の声を聞け!」――  
安保関連法案を審議する  
参院特別委員会の委員会室  
前は16日午後6時半過ぎ、  
議論の終局を意味する締め  
くくり総括質疑を阻止しよ

が委員会室に入らうとする  
と、廊下を埋め尽くすほど  
集まつた野党議員が止めよ

の会議は16日、参院特  
りたいと党と採決を阻止し  
の広げた。国会内では与野  
市で開かれた地方公聴会  
会員辺は法案に反対する多  
指摘され、「安保国会」は  
なヤマ場を迎えた。

うる集まつた野党議員の大  
合唱に包まれた。

職権で絶賛疑を設定し  
た自民党の瀬田洋蔵委員長  
が委員会室に入り(とすると  
と、廊下を埋め尽くすほど)  
集まつた野党議員が止めよ  
うとし、もみぐらやになつ  
た。民主、共産、社民各党  
の女性議員は「怒れる女性  
議員の会」と書いたピンク  
色のはわまきを頭に巻き、  
「女性の公述人を国会に呼  
んで下さい」と訴えるな  
ど、騒然となつた。

採決をめぐる与野党のせ  
めあいは、この日朝から  
激しくなつていた。

自民党的吉田博美参院国  
会対策委員長は16日午前、  
別の法案を採決するためにつ  
けられた参院本会議の前、  
所属議員に向けて「非常に  
厳しい一日になる」「心頭減  
却すれば火もおのずから涼  
しい」と警告を飛ばした。  
その後、参院本会議の開  
会を告げるベルが鳴り、自由  
民党的山崎正昭議長が着席  
しようとした瞬間、野党議員  
から「違憲立法のベルを  
鳴らしたらダメだぞ」とヤ  
ジが飛んだ。

与党は採決に向けた環境  
整備を進めた。安倍晋三首

相はこの日、公明の山、那津男代表とともに野党の次世代の党、日本を元気にする会、新党改革の3党との党首会談に臨んだ。3党が求めていた自衛隊派遣時の国会の関与強化について、安倍内閣の閣議決定や国会の付帯決議によって担保されることが如意した。

会談の最終局面で、首相は自ら「ある程度、譲っても良い」と指示を出した。

## 地方公聴会でも一辯憲

5党の合意を受け、首相は記者団に「できる限り多くの政党的支持を得た」と冗談つて語った。菅義偉官房長官も記者会見で「与党に加えて野政の党が採決に加わる見通しなくなった。強行採決でないことは明々白々だ」と強調した。  
これに対し、法案に反対する民主、維新、共産、社民、生活の党と山本太郎などたちの野党5党は与党の動きに徹底抗戦した。  
16日午後5時過ぎ、5黨の党首が国会内で会談し、対応を協議。終了後、民主の岡田克也代表は「決まり

たいに立派な席。採決を記録するには、した結婚式の総括は認められない。そして、委員会の強行採決をするなり、（関係閣僚への）問責決議を含め、あらゆる手段でこれを阻止する」と訴えた。

で領海侵犯を繰り返す。中国を名指し、さらに朝鮮半島有事の場合、法整備によりて日本への攻撃前でも他国軍への攻撃が排除できるメリットを強調した。「法案の根幹は現状変更を試みようとする他国の意図をくじく」とある。

数の警察官が配置される物  
々しい雰囲気の中で始まつた。前日の中央公聴会に続  
き、野党推薦の公述人から  
は「憲法違反」「立憲主義  
に反する」と、法案の根幹  
部分や安倍政権の政治手法  
に対する批判が相次いだ。  
広渡清吉・専修大教授  
(ドイツ法)は「集団的自  
衛権の行使で、自ら進んで  
他国に戦争を仕掛けること」  
による「地域的限定を外し  
た外国軍への後方支援は限  
りなく武力行使と一体化す  
る」と述べ、「憲法に反する」と指摘。安倍政権が從來の  
憲法解釈を一内閣の判断で  
変更した手法についても  
「民主主義と立憲主義に対  
する挑戦だ」と非難した。

弁護士の水上真央氏は、  
外國軍艦などを自衛官が武  
器を使って守ることは事実  
上の他国防衛にあたるとし  
たうえで、「武力行使の新  
3要件」に縛られない集団的  
自衛権の行使を認めるもの  
だと主張。「違憲の問題を抱えているだけではなく、法  
律自体が欠陥法案だ」と述べ、いつたん廃案にして出  
直すべきだと訴えた。

一方、与党推薦の公述人は、日本に対する周辺国の  
武力攻撃を思いとどまらせ  
る抑止力の強化につながる  
法案だと主張した。

すぐに新幹線が車で東京に戻り、総括質疑に入る。ことを想定したような場所だった。公述人からは、そのあたり方にも不満の声が出た。

水上氏は「地方公聴会が採決のための単なるセレモニーに過ぎず、茶番であるなら申し上げる意見を持ち合わせていない」。佐渡氏も「公聴会は（本来）国会でもつと國民の声を聞いて進めよといふこと。強行採決がおこるとすれば、参院が問われる」と述べた。

質疑が終わると、鴻池委員長に対し、会場の傍聴人から「強行採決するな」とのヤジが起きた。（右松恒）